

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0194

(注)本稿は 2011 年 8 月 4 日から 11 日まで4回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2011.8.11
前田 高行

MENA(中東・北アフリカ)22カ国の対外直接投資(UNCTAD2011年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その4)

目次	頁
「World Investment Report 2011」について	1
1. 2010年の FDI inflows(直接投資流入額)	2
2. 2005－2010年の直接投資流入額の推移	2
3. 2010年の FDI outflows(対外投資額)	3
4. 2005－10年の対外投資額の推移	4
5. 2010年の FDI Inward Stock(直接投資流入額残高)	5
6. 1990－2010年の流入残高の推移	6
7. 2010年の FDI Outward Stock(対外投資残高)	7
8. 1990－2010年の対外投資残高の推移	8

東はアフガニスタンから西はモーリタニアまでの MENA(中東・北アフリカ)22カ国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。

第4回のランキングは、UNCTAD(国連貿易開発会議)が毎年刊行する世界各国の直接投資(FDI)に関する報告書の最新版「World Investment Report 2011」から MENA 諸国をとりあげて比較しました。(詳細は下記参照)

<http://www.unctad.org/Templates/webflyer.asp?docid=15189&intItemID=6018&lang=1&mode=downloads>

「World Investment Report 2011」について

UNCTAD の「World Investment Report 2011」は、外国直接投資(Foreign Direct Investment, 以下 FDI)の最新の状況を世界規模で調査分析した報告書であり対象となっている国は200以上に達する。

本稿では MENA22ヶ国及びパレスチナ自治区の FDI inflows(直接投資流入額)、FDI outflows(直接投資流出額)、FDI inward stock(直接投資流入残高)及び FDI outward stock(直接投資流出残高)の2005年～2010年のデータを取り上げ、MENA 各国の直接投資の現状を比較することとする。

1. 2010年の FDI inflows(直接投資流入額)

2010年の MENA 各国の直接投資流入額(以下流入額)の総額は840億ドルであった。この額は米国(2, 282億ドル)の3分の1にとどまり、中国(1, 057億ドル)の8割強の規模である。因みに MENA の流入額は全世界の合計額1兆2, 440億ドルの6. 8%を占めている。(詳細は表「2010年 FDI Inflows(対内直接投資)」<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4aFdiInflows2010.pdf> 参照)

国別ではサウジアラビアが281億ドルで最も多く、同国だけで MENA 全体の3分の1を占めている。第2位以下で流入額が50億ドルを超えているのはトルコ(91億ドル)、エジプト(64億ドル)カターール(55億ドル)及びイスラエル(52億ドル)であるが、いずれもサウジアラビアの3分の1乃至6分の1にとどまっている。これら上位5カ国で MENA の直接投資流入額の65%を占めている。6位から11位まではレバノン(50億ドル)、UAE(39億ドル)、リビア(38億ドル)、イラン(36億ドル)、アルジェリア(23億ドル)、オマーン(20億ドル)で、これらの国々は流入額が20億ドルを超えている。

12位から17位までは10億ドル台であり、ヨルダン(17億ドル)、スーダン(16億ドル)、チュニジア(15億ドル)、イラク(14. 3億ドル)、シリア(13. 8億ドル)、モロッコ(13億ドル)となっている。18位、19位のバーレーン、パレスチナ自治区は流入額が1億ドル台であり、20位以下のクウェイト、アフガニスタン、モーリタニアは1億ドル未満と非常に少ない。イエメンは流入額がマイナス3. 3億ドルとなっており、これは2010年中に流入額を上回る投資の引き揚げ額があったためである。これら6カ国のうちクウェイトを除く5カ国は治安の悪さが外国投資家から敬遠された理由と考えられる。

クウェイトはサウジアラビア、カターール及びUAEなど同じGCC産油国に比べて流入額が極端に少ない。同国は世界有数の産油国であり豊かな財政力を誇り、また治安も良好であるにもかかわらずサウジアラビアの320分の1、カターールの70分の1、UAE の50分の1にとどまっている。クウェイトは外国の資本と技術による国内産業の活性化を図ろうと努力しているが、政府と国会が不毛の対立を繰り返して国家発展のビジョンが欠けている。流入額が他の GCC 産油国に比べ極めて低いのは、同国の国内投資環境が魅力に欠けるためである。むしろ同国は次章(FDI Outflow、直接投資流出額)で触れるように豊富なオイルマネーを国内ではなく外国に投資する金融立国の様相を呈している。他の GCC 産油国が国内産業の振興と外国への投資を両立させていることに比べるとクウェイトの直接投資の性格は極めて特異である。

2. 2005－2010年の直接投資流入額の推移

(表「MENA 諸国の FDI Inflows(対内直接投資)、2005～2010年」<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4cFdiInflowMena2005-2010.pdf> 参照)

MENA 地域の流入額は2005年から2008年にかけて急激に増加しており、05年657億ドル、06年1,075億ドル、07年1,138億ドル、そして08年には1,289億ドルに膨張した。しかし08年のリーマン・ショックにより09年には921億ドルに急減、この減少傾向は続き2010年の流入額は840億ドルであった。

リーマン・ショックは MENA に限らず世界全体に影響を与え、全世界の投資総額も08年の1.74兆ドルから09年には1.19兆ドルに減少している。全世界の投資に占める MENA22カ国の比率は08年7.4%、09年7.8%であった。2009年から2010年にかけては世界の投資活動が回復し世界全体の投資総額は微増したが、上述の通りMENAの投資流入額は減少しており全世界に占める MENA の比率は6.8%に低下した。

2010年の MENA の流入額上位7カ国(サウジアラビア、トルコ、エジプト、カタール、イスラエル、レバノン及び UAE)の過去6年間の推移を見ると(図 <http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4bFdiInflow2005-2010.pdf> 参照)、2005年にはサウジアラビア、トルコ及び UAE が100億ドル以上で、その他の4カ国(エジプト、イスラエル、レバノン、カタール)はその半分以下の30~50億ドルであった。06年にはトルコ及びイスラエルが急激に増加してトルコはサウジアラビアを抜き MENA 地域最大の直接投資流入国となった。しかしこの両国はその後減少傾向をたどり、これに対してサウジアラビアは高い水準を維持している。この結果08年以降はサウジアラビアが MENA 諸国の中では突出して流入額の多い状態が続いている。

UAE の場合は05年に109億ドルでありその後08年までの4年間は100億ドル以上の水準を維持していた。しかし09年には40億ドルと一挙に3分の1以下に減少、2010年も39億ドルであった。UAE の対内直接投資はドバイ首長国が牽引してきたが、ドバイ・ショックと称されるバブル崩壊の影響が顕著に表われており現在のところ回復の兆しが見えない。

3. 2010年の FDI outflows(対外投資額)

2010年の MENA 各国の対外投資額(FDI outflows)の総額は247億ドルであり、同年の全世界の合計額1兆3千億ドルに占める割合は1.9%であった。これは直接投資流入額(FDI Inflows、第1項参照)の世界全体に占める割合6.8%を大きく下回っており、MENA 地域は資本の出資者であるよりも、むしろ資本の導入国という色合いが強いことを示している(詳細は表「2010年 FDI Outflows(対外投資額)」<http://members3jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4dFdiOutflow2010.pdf> 参照)

国別では、イスラエルが80億ドルと最も多い。ついで多いのがサウジアラビアの39億ドルであり、この2カ国だけで MENA 全体の48%を占めている。第3位はクウェイトの21億ドル、第4位 UAE20億ドル、第5位カタール19億ドルとなっている。2位から5位までは湾岸の産油国であり、原油高騰によりこれらの国々に流れ込んだオイルマネーが外国に還流している様子がうかがわれる。

これら5カ国に続くのがトルコ(18億ドル)、リビア(13億ドル)、エジプト(12億ドル)であり、これら8カ国で9割弱に達し MENA の対外投資は一部の国にかたよっていると見える。9位のモロッコ以

下、レバノン、イラン、バーレーン、オマーン、アルジェリアの6カ国は10億ドル未満であり、更にチュニジア、イエメン、イラクなど8カ国の対外投資額は1億ドル未満である。なおアフガニスタンはデータが示されていない。

対外投資額と流入額(第1項参照)を比べると、クウェイトは対外投資額21億ドルに対して流入額はわずか0.8億ドルにとどまり大幅な出超となっている。他の湾岸産油国ではサウジアラビア、カタール、UAE はそれぞれ242億ドル、36億ドル、19億ドルの入超であることと比べクウェイトは際立った違いを見せている。前章にも書いたとおり同国は国内市場が小さいうえ、政府と国会が対立し産業の多角化が他の湾岸産油国に比べ大幅に遅れている。自国に投資機会がないため、国内資本が海外に投資している状況を如実に示している。

4. 2005－10年の対外投資額の推移

(表「MENA 諸国の FDI Outflows (対外直接投資)、2005～2010年」
<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4eFdiOutflows2005-10.pdf> 参照)

MENA 地域の2005年から2010年までの対外投資額は2005年の157億ドルから06年には一挙に2倍以上の378億ドルに急増し、さらに07年は482億ドル、08年には559億ドルに達し、4年間で3.6倍に膨張した。この間、世界全体の対外投資も拡大しており、全世界の対外投資額に占める MENA の割合は2%台で推移している。2009年は前年のリーマンショックの影響により MENA の対外投資は一挙に309億ドルに減少した。但し全世界の投資額も同様に急減しており MENA のシェアは2.6%とそれまでと大きな変化はなかった。

2010年の MENA の対外投資は09年をさらに下回り総額247億ドルと6年前の水準に逆戻りしている。一方世界全体の対外投資総額は回復の兆しを見せて前年を上回った。このため MENA の世界に占めるシェアは2%を割り1.9%に低下している。

豊富なオイルマネーを有する GCC 産油国は有力な対外投資国であり、上記に述べた通りサウジアラビア、クウェイト、UAE、カタールは MENA 22カ国中で2位から5位を占めている。これら4カ国にバーレーンを加えた GCC 5カ国の2005年から2010年までの対外投資を各国別に見るといくつかの特徴がある。(図<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4fFdiOutflowGcc2005-10.pdf>参照)

2005年の対外投資額はクウェイトとUAE がそれぞれ51億ドル及び38億ドルであり、この2カ国は他の3カ国に比べかなり高い水準であった。両国の投資額はその後も毎年増加し、特に UAE の場合08年には4倍強の158億ドルに達しクウェイトに大きな差をつけた。しかし UAE の投資額は08年から09年にかけて6分の1に激減して05年を下回り、2010年も減少に歯止めがかからなかった。クウェイトは UAE ほどの大きな振幅はないが、07年まで増加した後、2010年には前年に比し急減している。

これに対して05年に4億ドルであったカタールの対外投資額は2年後の07年から急激に増加、09年には116億ドルに達して5カ国中では最大規模の投資国となった。しかし2010年には19億

ドルに急減している。このように UAE、クウェイト及びカタールの対外投資額の推移は似たような軌跡をたどっている。2008年年央に原油価格が市場最高の147ドルを記録しており、これら3カ国に膨大な余剰オイルマネーが生じたことが05年から09年にかけて対外投資が急増した要因である。しかしその後のリーマンショック及び原油価格の暴落により3カ国の投資は一転して減少した。

サウジアラビアは05年の投資額がマイナス4億ドル（これは海外からの投資の引き揚げが新規投資を上回ったことを示している）であったが2年後の07年以降は増加に転じた。但しその増加傾向は UAE、カタールに比べて穏やかであり、同国は対外投資に慎重な姿勢を保っている。2010年の対外投資でカタール、クウェイト、UAE がいずれも前年を下回る中でサウジアラビアのみが増加しており、同国の対外投資は慎重な中にも堅実であることが読み取れる。

バーレーンの場合は05年から08年までほぼ一定していたが09年に大きく後退した（09年はマイナス18億ドルであり投資の引き揚げが新規投資を上回った）。しかし2010年には投資の新規増加と引き揚げ額がバランスする状態に戻っている。

5. 2010年の FDI Inward Stock(直接投資流入額残高)

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4gFdiInwardStock2010.pdf> 参照)

2010年末の MENA22カ国・1機関(パレスチナ自治区)の直接投資流入額残高(以下流入残高)の総計は8,905億ドルであり、世界全体の流入残高19兆1,400億ドルに占める比率は4.7%であった。同年中の MENA の直接投資流入額の全世界に占める割合が6.8%であったことと比較すると(第1項参照)、MENA 地域では過去の投資が少なく、最近になって活発化していることがわかる。

投資残高の最も多い国はトルコの1,819億ドルであり、2位はサウジアラビアの1,705億ドルであった。MENA で投資受入残高が1千億ドルを超えるのはこの2カ国だけであり、両国で MENA 全体の4割を占めている。3位から5位まではイスラエル(778億ドル)、UAE(762億ドル)、エジプト(731億ドル)がほぼ同じ規模で並んでいる。これら上位5カ国で全体の65%を占めており投資が一部の国に集中していることがわかる。

6位から10位まではモロッコ(420億ドル)、レバノン(370億ドル)、カタール(314.3億ドル)、チュニジア(313.7億ドル)、イラン(276億ドル)であり、16位のバーレーンまでが投資残高100億ドルを超える国である。

2010年の残高順位を単年度順位(第1項)と比較すると、残高順位1位のトルコは単年度順位ではサウジアラビアと順位が入れ替わっている。イスラエル、UAE 及びエジプトは残高順位が2位、3位、4位に対して単年度順位はそれぞれ5位、7位、3位となっている。カタールは残高順位8位に対し単年度順位は4位であり、同国向けの外国投資は最近高まりをみせていると言えよう。カタールのような国は他にもリビア(単年度順位8位、残高順位14位)、イラク(同15位、19位)がある。これに対してモロッコは単年度順位17位、残高順位6位であり、同国は過去に投資資金が活発に流

入していたが、最近では低調であることがうかがえる。チュニジア(同9位、14位)も同様である。

流入残高が100億ドルを下回る国はシリア、クウェイト、イラク、イエメンなどである。クウェイトは投資残高が65億ドルでありサウジアラビア、UAE、カタールなど他のGCC産油国に比べると非常に少ない。同国は外国投資家にとって投資対象として極めて魅力が乏しいことを示しているようである。

なお日本、米国、中国の流入残高はそれぞれ2千億ドル、3兆5千億ドル及び6千億ドルであり、MENA22カ国は残高規模で日本の4倍、中国の1.5倍であるが、米国の約4分の1の規模である。

6. 1990—2010年の流入残高の推移

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4hFdiInwardStock1990-2010.pdf> 参照)

1990年末の MENA の流入残高合計は618億ドルであり、10年後の2000年末には1,313億ドルに倍増している。その後流入残高は急激に膨らみ、2005年末は2,725億ドルと5年間で倍増している。2005年以降は一層弾みがつき2006年末4,259億ドル、2007年末5,632億ドル、2008年末6,179億ドル、2009年末6,529億ドルとなり2010年末には8,905億ドルに達している。2010年の残高は2005年に比べて3.3倍に膨張している。この間の世界全体の流入残高の増加は1.9倍(10兆ドル→19兆ドル)であり、MENA の増加率は世界平均を上回っている。その結果、MENA の世界全体に占める比率も2005年の2.7%から2010年には4.7%にアップしており、投資流入国としての MENA の存在感が増しつつある。

流入残高の変動は MENA 各国で大きく異なるが、ここでは地域における主要な投資受入国5カ国(トルコ、サウジアラビア、イスラエル、UAE 及びエジプト)について、1990年、2000年及び2005—10年の各年末の残高の推移を概観してみる(図「主要国の直接投資流入残高の推移」<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4iFdiInwardStockByMajorCountries1990-2010.pdf> 参照)。

トルコの1990年末の残高は112億ドルであったが、2010年末のそれは1,819億ドルに達し、この間に16倍に膨れ上がっている。同国の場合は2007年までは急増、サウジアラビアなどを凌駕して MENA トップの流入残高を誇っていた。2008年、09年には急減したが、2010年には流入残高が再び MENA で最大となっている。

サウジアラビアの流入残高は1990年代は200億ドル未満で推移していたが、2000年以降急激に増加している。2006年には500億ドルを突破すると成長は加速し2008年には1千億ドルを超え、2009年末に1,500億ドル弱となり2010年末には1,700億ドルに達した。

2000年末の残高が224億ドルであったイスラエルはその後も順調に投資残高を増やしており、10年後の2010年末の残高は3.5倍の778億ドルに達している。UAE の場合は1990年末の残高がわずか8億ドルにすぎず2000年末に漸く10億ドルを超えたが、その5年後の2005年末の残

高は282億ドルに急成長し2008年末には700億ドル近くに達している。但しその後は09年末734億ドル、10年末762億ドルと増加の足取りは鈍い。UAE ではドバイのバブル景気が弾けて外国からの投資が急減したと言われているが、同じ UAE のアブダビが堅調な石油価格に支えられて大規模な開発事業を行っており、これにより UAE 全体として外国からの投資が漸増しているものと思われる。

エジプトも1990年末の110億ドルから200年末には200億ドルに増加、その後も流入残高は毎年増加し2010年末には731億ドルに達している。

このように MENA 各国には外国からの投資が順調に流入している。但し MENA 地域では昨年末のチュニジア政変に端を発し、今年に入ってエジプトでもムバラク体制が崩壊、またリビア、バーレーン、イエメン、スーダン、シリアなど各国で政情が不安化している。さらに欧州の金融危機、米国の景気後退などで世界の投資活動の先行きに不安要素がある。MENA 地域への投資が今後も順調に拡大するかどうか予断を許さない状況である。

7. 2010年の FDI Outward Stock(対外投資残高)

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4jFdiOutwardStock2010.pdf> 参照)

2010年末の MENA 19カ国(アフガニスタン、イラク、スーダンはデータ無し)及び1機関(パレスチナ自治区)の FDI Outward Stock(以下、対外投資残高)は2,535億ドルである。全世界の対外投資残高は20兆ドルに占める比率は1.2%で、MENA 各国の対外投資は他の地域に比べて極めて低い水準にとどまっている。

対外投資残高が最も多い国はイスラエルの663億ドルであり、これに次ぐのが UAE の556億ドルである。投資残高が500億ドルを超えるのはこの2カ国で MENA 諸国の中では際立って多い。これに次ぐ第3位はカタール(257億ドル)、第4位はトルコ(238億ドル)であるが、これら4カ国を合わせるとMENA 全体の7割弱を占めており、MENAの対外投資は一部の国に偏っていることを示している。

対外投資残高5位以下は、クウェイト(187億ドル)、6位サウジアラビア(170億ドル)、7位リビア(133億ドル)であり、7位までが対外投資残高100億ドル以上の投資国である。そしてこれら上位6カ国の MENA 総額に占める割合は87%に達する。なお上位7か国のうち4カ国(UAE、カタール、クウェイト及びサウジアラビア)湾岸産油国であり、2000年以降の原油価格高騰によりこれら産油国の豊富なオイルマネーが外国投資に振り向けられた結果と言えよう。なおクウェイトの場合、投資流入額は単年度及び累積残高とも MENA 諸国の中でも最も低いレベルにとどまっているのに対し(1,3章参照)、対外投資額は単年度では MENA3位(その2参照)、残高では5位であり、オイルマネーが継続的に国外に向かっていることを示している。

対外投資残高が10億ドル以上100億ドル未満の国は、バハレーン(79億ドル)、レバノン(72億ドル)、エジプト(54億ドル)、モロッコ(27億ドル)、イラン(26億ドル)、オマーン(22億ドル)、アルジ

エリア(18億ドル)、パレスチナ自治区(16億ドル)である。対外投資残高の少ない国はイエメン(5.1億ドル)、ヨルダン(4.8億ドル)、シリア(4.2億ドル)などである。なおアフガニスタン、イラク及びスーダンの3カ国はデータが示されていない。

8. 1990-2010年の対外投資残高の推移

(表<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4kFdiOutwardStock1990-2010.pdf> 参照)

1990年末の MENA の対外投資残高は合計117億ドルであり、2000年末には2.4倍の285億ドルに増加した。しかし世界全体に占める割合は0.4%であり、外国直接投資(FDI)の出資国としての存在感は殆どなかった。その後FDIが世界的規模で拡大する中でMENA 諸国の投資額も増え、対外投資残高は2005年末に515億ドルとなり2008年末には2千億ドルを超えた。2009年以降は伸び率は低下しているが投資残高は着実に増加しており、2010年には2,535億ドルに達している。

2010年末の対外投資残高上位6カ国(イスラエル、UAE、カタール、トルコ、クウェイト及びサウジアラビア)について1990年以降の残高の推移を見ると(図「MENA 主要国の対外直接投資残高」<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/5-4lFdiOutwardStock1990-2010.pdf> 参照)、1990年の対外投資残高は最も多いクウェイトでさえ37億ドルにすぎなかった。MENA各国の残高は同年の世界合計2.1兆ドル或いは日本の2千億ドル、米国の7,300億ドルに比べ微々たるものであった。

その後90年代から2000年初めにかけてイスラエルの残高は8倍弱増加したが、UAE、サウジアラビアなどの湾岸産油国は低迷したままであった。2000年代に入ると湾岸産油国の対外投資は急速に伸び特にUAEの投資残高は06年末120億ドル、07年末270億ドル、08年510億ドルと急成長しイスラエル(540億ドル)に肉薄した。UAE のその後の伸びは低い、それでも2010年末の対外投資残高は556億ドルで、MENA 諸国の中ではイスラエル(663億ドル)に次ぐ第2位であり、3位のカタール(257億ドル)を大きく引き離している。

サウジアラビアはUAEを追いかけるように急伸び、09年の残高は400億ドルを記録しているが、2010年は投資残高が170億ドルに急減している。躍進が目覚ましいのはカタールであり、同国の場合2000年末の投資残高は1億ドル未満に過ぎなかったが、06年には10億ドルを超え、08年末には87億ドル、2010年末は257億ドルに達している。2010年の投資残高は2005年の42倍という驚異的な伸び率である。

(完)

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp